

「早稲田学」の試みと今後の展望

檜 皮 瑞 樹

1 「早稲田学」設置に至る経緯

大学史資料センター（以下センターと略す）では、二〇〇九年度より早稲田大学オープン教育センター科目として「早稲田学」を設置・運営してきた。センターは、一九九八年に大学史編集所を引き継ぎ新設され、『早稲田大学百年史』編纂過程で収集した資料の整理・保存・公開や大学関係文書の収集・保存など、大学アーカイブズとしての役割を果たしてきた。同時に、創設者大隈重信をはじめとする学苑創設関係者の事績や、早稲田大学の一〇〇年をこえる歴史に関する研究機関としての役割を担ってきた。研究成果の一部は、『大隈重信関係文書』などの刊行物、毎年二回の企画展示などで広く社会に公開してきた。

このようなセンターの機能をより拡大し、広く研究成果を活用することを企図し、吉田順一所長（当時）を中心に

センター内で二〇〇八年度より学生向けの講座開設に向けての議論を重ねた。二〇〇八年秋季にはオープン教育センター科目として設置することを決定し、正式な申請と認可を経て二〇〇九年度よりの「早稲田学」新設が確定した。センター独自の講義科目設置は初めてのことであったが、センター内での研究成果を大学教育に還元することを目的とし、全学共通科目としての役割を担っていたオープン教育センターでの講座設置が決定された。当時策定された設置趣旨と講義概要は以下の通りである。

設置趣旨

早稲田大学は一八八二年（明治一五）の創立以来、一二五年の歴史を有する。これは、国立大学・私立大学を含めても有数の歴史である。この間、多くの卒業生を社会に送り出すと同時に、学問的にも多くの人材を輩出した。その基幹となったのは早稲田大学の理念であり、それは建学の精神でもある。本講座は、学生に早稲田大学の理念を伝えると同時に、日本の近現代史に早稲田大学が果たしてきた役割を考える契機とする。本講座を通じて、学生は母校が社会に果たしてきた役割や早大生であることの意義、さらには大学と社会との宿命的関係や「学」の独立とその意義を学ぶことが可能となる。

講義概要

本講座では、前期と後期にそれぞれ大きなテーマを立てる。前期は「学祖大隈重信」、後期は「早稲田一二五年の歴史」である。前期は、早稲田大学の創設者であり、日本近代史において重要な役割を果たした政治家でもある大隈重信に関する講義である。大隈重信の生涯を紹介しながら、彼の生涯を通じた政治理念や教育活動に関する講

2011年度前期 講義計画

回 数	内 容
第1回 (5 / 9)	[第1回] ガイダンス・総論
第2回 (5 / 16)	[第2回] 佐賀藩における大隈重信
第3回 (5 / 23)	[第3回] 明治維新と大隈重信
第4回 (5 / 30)	[第4回] 明治新政府の中の大隈重信 (1)
第5回 (6 / 6)	[第5回] 明治新政府の中の大隈重信 (2)
第6回 (6 / 13)	[第6回] 明治十四年の政変と下野
第7回 (6 / 20)	[第7回] 立憲改進黨の結成・東京専門学校の開校
第8回 (6 / 27)	[第8回] 大隈条約改正交渉と遭難事件
第9回 (7 / 4)	[第9回] 第一次大隈内閣の成立
第10回 (7 / 11)	[第10回] 第二次大隈内閣の成立と対外政策
第11回 (7 / 18)	[第11回] 文明運動の推進
第12回 (7 / 25)	[第12回] 「大隈重信」像の形成
第13回 (8 / 1)	[第13回] 講義成果の確認

2011年度後期 講義計画

回 数	内 容
第1回 (9 / 26)	[第1回] ガイダンス・総論
第2回 (10 / 3)	[第2回] 大隈重信と早稲田
第3回 (10 / 10)	[第3回] 東京専門学校の創立と小野梓
第4回 (10 / 17)	[第4回] 東京専門学校時代 (1) 一相次ぐ外圧
第5回 (10 / 24)	[第5回] 東京専門学校時代 (2) 一校勢の進展
第6回 (10 / 31)	[第6回] 早稲田大学の成立
第7回 (11 / 7)	[第7回] 明治期早稲田の学生生活と気風
第8回 (11 / 14)	[第8回] 早稲田大学の発展
第9回 (11 / 21)	[第9回] 大正デモクラシー期の早稲田
第10回 (11 / 28)	[第10回] 学生と戦争
第11回 (12 / 5)	[第11回] 女子学生の誕生
第12回 (12 / 12)	[第12回] 新制早稲田大学の成立とその意義
第13回 (12 / 19)	[第13回] 新制早稲田大学 (1) 一高度経済成長期
第14回 (1 / 16)	[第14回] 新制早稲田大学 (2) 一大学間競争時代
第15回 (1 / 23)	[第15回] 講義成果の確認

義を行う。なぜなら、大隈の思想とは早稲田大学の建学の精神に多大な影響を及ぼしているからである。後期は早稲田大学の一二五年にわたる歴史を紹介する。特に、大学と社会・時代状況との関わりや、学生生活に焦点をあてた講義を行う予定である。

また、講義の内容については、前期を創設者大隈重信の生涯、後期を東京専門学校から早稲田大学の歴史とした。参考までに、二〇一一年度のシラバスに掲載された講義計画を挙げておく。^①

2 これまでの成果と課題

早稲田学開講から二年半が経過したが、これまでに得られた成果と課題について簡単に論じることとする。

本講義の特色のひとつがオープン教育センターに設置された共通科目という点である。履修学生は、ほぼ全学部にわたっており、文系・理系を問わず大きな偏りはない。しかし、多様な受講者という点は、受講者の基礎的知識のばらつきという問題でもある。本講義は、大隈重信や早稲田大学のエピソードを講義すること、すなわち「トリビア」的内容が目的ではない。前期「創設者大隈重信」は、日本の近代化、近代日本政治史における大隈重信の活動と思想の意味を、後期「近代史のなかの早稲田大学」は、東京専門学校から早稲田大学への歴史過程を近代日本における高等教育の歩みや、政治・学問・学生の相互関係の歴史として理解することを目的とする。そのため、本講義をより深く理解するためには、日本近代政治外交史、教育史（高等教育史）、社会史などの幅広い基礎的知識が求められる。しかし、受講生の全てがこのような基礎的知識を身につけている訳ではない。例えば、試験回答のなかには立憲改進黨と自由党との混同（大隈が自由党を結成した）や、条約改正交渉と対華二一カ条要求との混乱（大隈外相時代の業績と第二次大隈内閣との混同）など、日本近代史に関する基礎的事実の理解不足が見られた。そのため、大隈重信や早稲田大学の歩みと並行して、日本近代史全般に関わる基礎的な講義が必要となる。日本近代史の流れを整理したうえで、大隈重信や早稲田大学の歴史が、日本近代史全般とどのように関わったのか、あるいは大隈や早稲田という視点から日本近代史を再検証することの意義を理解させていく必要がある。

もうひとつの課題は、「自校史を学ぶ意義」についてである。近年各大学で開講されている自校史教育は、その意

味・目的について定まった見解を持たない状態である。本講義では、自らが所属し日々学ぶ「場」「空間」の歴史性について理解し、自らのアイデンティティ形成を考える、という目的をそのひとつに掲げている。「自校史を学ぶ」という行為は、何も所属する大学、あるいは大学生であることに「誇り」を持つことのみを意味しないことは明らかである。そうでなければ、単なる愛校心の強要でしかなく、「ブチ・ナシヨナリズム」と揶揄されても仕方ない。受講者にも、「早稲田に誇りをもつかどうかは個人の問題であり、そうではなく自分達が学ぶ『空間』の歴史性について考えて欲しい」と説明している。また、自校史とは大学自身のアイデンティティに関わる問題であり、現在の早稲田の自己定義とも密接に関係する。そのため、単なる歴史の賛美や自己満足に陥る危険性を常に意識しなければならない。

自校史教育はまだ始まったばかりであり、多くの課題を抱えている状態である。早稲田大学におけるこのような取り組みが、創設者や大学の礼賛にとどまらない、「自立」した学問として確立することが求められる。

注

(1) 二〇二一年度前期は、東日本大震災の影響で講義回数が二三回と変更となった。掲載した講義計画は変更後の内容。